

日本生命 PJ・社会的受容性分析 第3回 TF メモ

1. 第2回 TF の成果と課題

2017年5月13日に開催した第2回 TF は、18名が出席し、以下の8報告を踏まえ、社会イノベーション、社会的受容性や協働ガバナンスなどをめぐって議論した。

報告1：松本礼史「制度選択と住民の合意形成：ごみ減量日本一への途」

報告2：李 洸昊「廃棄物管理における地域協働について」

報告3：渡邊敏康「低炭素型産業成長モデルの模索：地域企業と自治体のコラボレーション」

報告4：升本 潔「脱炭素化をめざす市民共同発電事業：未来への可能性」

報告5：平沼 光「地域主体の再エネ活用事業創出のプロセスと社会的受容性」

報告6：中村 洋「地域独自の中小事業所向け環境マネジメントシステムの社会的受容性と協働ガバナンスに関する予備的考察」

報告7：黒川哲志「佐渡におけるトキとの共生と多自然河川整備の社会的受容性」

報告8：岩田優子「環境保全型農業への挑戦：コウノトリ米の開発・普及過程」

主な議論は以下のようなものであった。

- ・掛川市のごみ減量運動における社会イノベーションとは何かを、榛村元市長以来のまちづくりの蓄積などの協働ガバナンスと社会的受容性から論じてほしい。
- ・掛川市以外の都市との比較分析もあった方がよい。
- ・地域の持続性指標をどのように考えるのかも重要だ。
- ・飯田市の第1章から第4章への並び順も検討した方がよい。
- ・3都市ケースの共通の分析枠組みやキーコンセプトの共通の定義・使用が重要だ。
- ・飯田市の低炭素化への取り組みによりどれだけのCO2削減効果があったのか。
- ・升本報告の Lay-expertise モデルは具体的に展開してほしい。
- ・豊岡ケースにおける社会イノベーションとは何かを明確にすべき。
- ・農家の受容性だけでなく地域社会の社会的受容性をみた方がよいのではないか。

以上の議論を踏まえ、第3回 TF では持続可能な地域形成のための社会イノベーションの共創・創発を可能とする「社会的受容性と協働ガバナンス」の要因・要素、条件、メカニズムなどについて、ケース横断的な観点から議論し、モデルの構築と日本の他の地方都市における適用可能性を検討する。

書籍の構成としては、序章（松岡）において書籍全体の課題、目的と構成、対象と方法、基本的な概念の説明、書籍の特徴や意義などを述べる。第1部（渡邊、升本、平沼、中村、松本、李、岩田、黒川）は、持続可能な社会への日本モデルである低炭素社会アプローチの事例として飯田市、資源循環型社会アプローチとしての掛川市、自然共生社会アプローチとしての豊岡市における社会イノベーションの共創と創発、普及のメカニズムを「社会的受容性と協働ガバナンス」という分析モデルを適用し、分析と評価を行う。

第2部は、序章の目的と分析フレームと3都市におけるケーススタディを受け、3都市だけでなく、日本の地方都市における社会イノベーションの形成・普及のために適用可能な社会的手法としての「社会的受容性と協働ガバナンス」モデルの一般化、普遍化を行う。そのため、まず第9章（松本・松岡）において「社会的受容性と協働ガバナンス」モデルの定義とメカニズム、条件などを明らかにする。その上で、第10章（勝田・師岡・渡邊）、第11章（鈴木）、第12章（渡邊・松岡）、第13章（島田）、第14章（岩田）において、「社会的受容性と協働

ガバナンス」モデルの重要な関連要素や関連研究などとの関係を議論することにより、「社会的受容性と協働ガバナンス」モデルの特色・意義、適用上の条件や配慮事項などを明確にする。
最後に、第 15 章（田中）において、こうした「社会的受容性と協働ガバナンス」モデルの地方都市への適用による持続的発展の測定・評価手法について論じる。

特に、第 10 章から第 13 章までの 4 つの章については、社会的受容性の 4 要素である技術的受容性とは何か（第 10 章）、制度的受容性とは何か（第 11 章）、市場的受容性とは何か（第 12 章）、地域的受容性とは何か（第 13 章）を RQ として論じつつ、他の関連する概念との関係も明らかにすることを意図している。また、第 14 章は協働ガバナンスとは何か RQ である。

2. 日生 PJ のリサーチクエスチョンと「社会的受容性と協働ガバナンス」のモデル化

地域の持続性課題 → マルチアクター → 社会的受容性と協働ガバナンス → 社会イノベーション

社会的受容性の 4 要素（①技術的影響評価である技術的受容性、②社会政治的適応性である制度的受容性、③経済性をみる市場的受容性、④地域の適応性をみる地域的受容性）がどのような関係性やメカニズムで作用し、飯田市、掛川市、豊岡市という 3 市における都市環境イノベーションが形成され、普及しているのか、その促進要因や阻害要因は何か、様々なレベルにおける様々なアクターがどのようにイノベーション・プロセスに関わったのかを分析する。

社会的受容性の 4 要素と協働ガバナンスを一つのモデルとすることで、技術的受容性と技術ガバナンス、制度的受容性と制度ガバナンス、市場的受容性と市場ガバナンス、地域的受容性と地域ガバナンスという 4 つの分析枠フレームの設定が可能となる。

なお、地域的受容性の内容としては、地域的技術受容性、地域的制度受容性、地域的市場受容性の 3 要素を考える。

A. 持続性

- ・環境的持続性
- ・社会的持続性
- ・経済的持続性
- ・(持続性とレジリエンス)

B. 持続可能な社会形成への 3 社会アプローチ

- ・低炭素社会
- ・資源循環型社会
- ・自然共生社会

C. 社会的受容性

- ・技術的受容性
- ・制度的受容性
- ・市場的受容性
- ・地域的受容性（技術的受容性、制度的受容性、市場的受容性）

D. 協働ガバナンス

- ・技術ガバナンス
- ・制度ガバナンス
- ・市場ガバナンス
- ・地域ガバナンス（技術ガバナンス、制度ガバナンス、市場ガバナンス）

E. 社会イノベーション

- ・技術イノベーション
- ・制度イノベーション
- ・市場イノベーション
- ・地域イノベーション（技術イノベーション、制度イノベーション、市場イノベーション）

3. 書籍の編成について

松岡俊二（編）『持続可能な地方都市—社会的受容性と協働ガバナンスがうみだす社会イノベーション—』（2018年晩秋、有斐閣刊行予定）

序章：持続可能な地方都市を創る：日本モデルと社会イノベーション（松岡俊二）

第Ⅰ部 ケース研究：3社会アプローチは地方都市でいかに試みられているか

- (1) 低炭素社会アプローチ：長野県飯田市のケース
 - 第1章：低炭素型産業成長モデルの模索：地域企業と自治体のコラボレーション（渡邊敏康）
 - 第2章：脱炭素化をめざす市民共同発電事業：未来への可能性（升本 潔）
 - 第3章：地域主体の再エネ活用事業創出のプロセスと社会的受容性（平沼 光）
 - 第4章：地域環境マネジメントシステムの社会的受容性と協働ガバナンス（中村 洋）
- (2) 資源循環型社会アプローチ：静岡県掛川市のケース
 - 第5章：制度選択と住民の合意形成：ごみ減量日本一への途（松本礼史）
 - 第6章：行政主導型地域協働アプローチ：行政と住民との協働（李 洸昊・松本礼史）
- (3) 自然共生社会アプローチ：兵庫県豊岡市のケース
 - 第7章：環境保全型農業への挑戦：コウノトリ米の開発・普及過程（岩田優子）
 - 第8章：トキの野生復帰を実現した制度の生成：佐渡と豊岡の比較（黒川哲志）

第Ⅱ部 「社会的受容性と協働ガバナンス」がうみだす社会イノベーション

- 第9章：社会的受容性と協働ガバナンス（松本礼史・松岡俊二）
- 第10章：技術イノベーションと技術的受容性（勝田正文・師岡慎一・渡邊敏康）
- 第11章：社会的受容性と制度的受容性（鈴木政史）
- 第12章：社会的受容性と市場的受容性（渡邊敏康・松岡俊二）
- 第13章：社会関係資本と地域的受容性（島田 剛）
- 第14章：協働ガバナンスにおける知の統合：地域という「場」と諸主体の成長（岩田優子）
- 第15章：地方都市の持続性の評価指標：持続性の3本柱と3社会モデル（田中勝也）

あとがき（松岡俊二）

4. 環境経済政策学会・企画セッション

企画セッション

テーマ：「地方都市と社会イノベーション：社会的受容性と協働ガバナンスから考える」

企画の趣旨・目的：

本企画セッションは、「社会的受容性と協働ガバナンス」による社会イノベーションの共創と創発を通じた持続可能な地方都市の形成のあり方を検討する。低炭素社会（長野県飯田市）、資源循環型社会（静岡県掛川市）、自然共生社会（兵庫県豊岡市）の構築を通じた持続可能な地域形成を目指す3地方都市の社会実験を、「社会的受容性と協働ガバナンス」の観点から分

析・評価し、日本の地方都市における持続可能な社会形成のための社会イノベーションの形成と普及のメカニズムを明らかにする。具体的には、社会的受容性の4要素（①技術的影響評価である技術的受容性、②社会政治的適応性である制度的受容性、③経済性をみる市場的受容性、④地域的適応性をみる地域的受容性）がどのような関係性やメカニズムで作用し、3都市における社会イノベーションが形成され、普及しているのか、その促進要因や阻害要因は何か、様々なレベルにおける様々なアクターの関係性としての協働ガバナンスや「場」がどのように社会イノベーション・プロセスに関わったのかを明らかにする。

企画セッションの構成：

- 報告1 ○松岡俊二・田中勝也・勝田正文・師岡慎一
「持続可能な地方都市を創る：日本モデルと社会イノベーション」
- 報告2 ○渡邊敏康・升本潔・平沼光・中村洋
「低炭素社会アプローチ：長野県飯田市のケース」
- 報告3 ○松本礼史・島田剛・鈴木政史・李洸昊
「資源循環型社会アプローチ：静岡県掛川市のケース」
- 報告4 ○岩田優子・黒川哲志
「自然共生社会アプローチ：兵庫県豊岡市のケース」

○はリードオーサー・報告者

5. 今後の予定

- (6/1 (木) 18:00：科研PJ第8回研究会)
6/2 (金) 12:00：環境経済・政策学会・企画セッション申込済
6月上旬 追加TF(?)
6/17 (土) 17:00：日生PJ第7回研究会 (713)
(6/29 (木) 18:00：科研PJ・第3回TF)
(7/25 (火) 18:00：科研PJ・第9回バックエンド問題研究会)
7/28 (金) 12:00：環境経済・政策学会企画セッション論文提出済
夏休み 第一次ドラフトの執筆
9/9 (土) - 9/10 (日) 環境経済・政策学会・企画セッション (高知工科大学@高知市)
9月20日(水)第一次ドラフト済
9月末 日生PJ・研究期間の終了
10・11月 WSの企画確定

2018年

- 2/3 (土) 午後 WSの開催@早稲田大学
(3/7 (水) 午後 第7回原子力政策・福島復興シンポ (予))
春休み 最終原稿の執筆
3月31日(土)最終原稿済
7月下旬 出版社へ完成原稿渡し
9・10月 校正作業
12月上旬 出版